尾崎地区　　歴史文化の視点１

9. 塩田とともに－浅野家が開いた塩田－

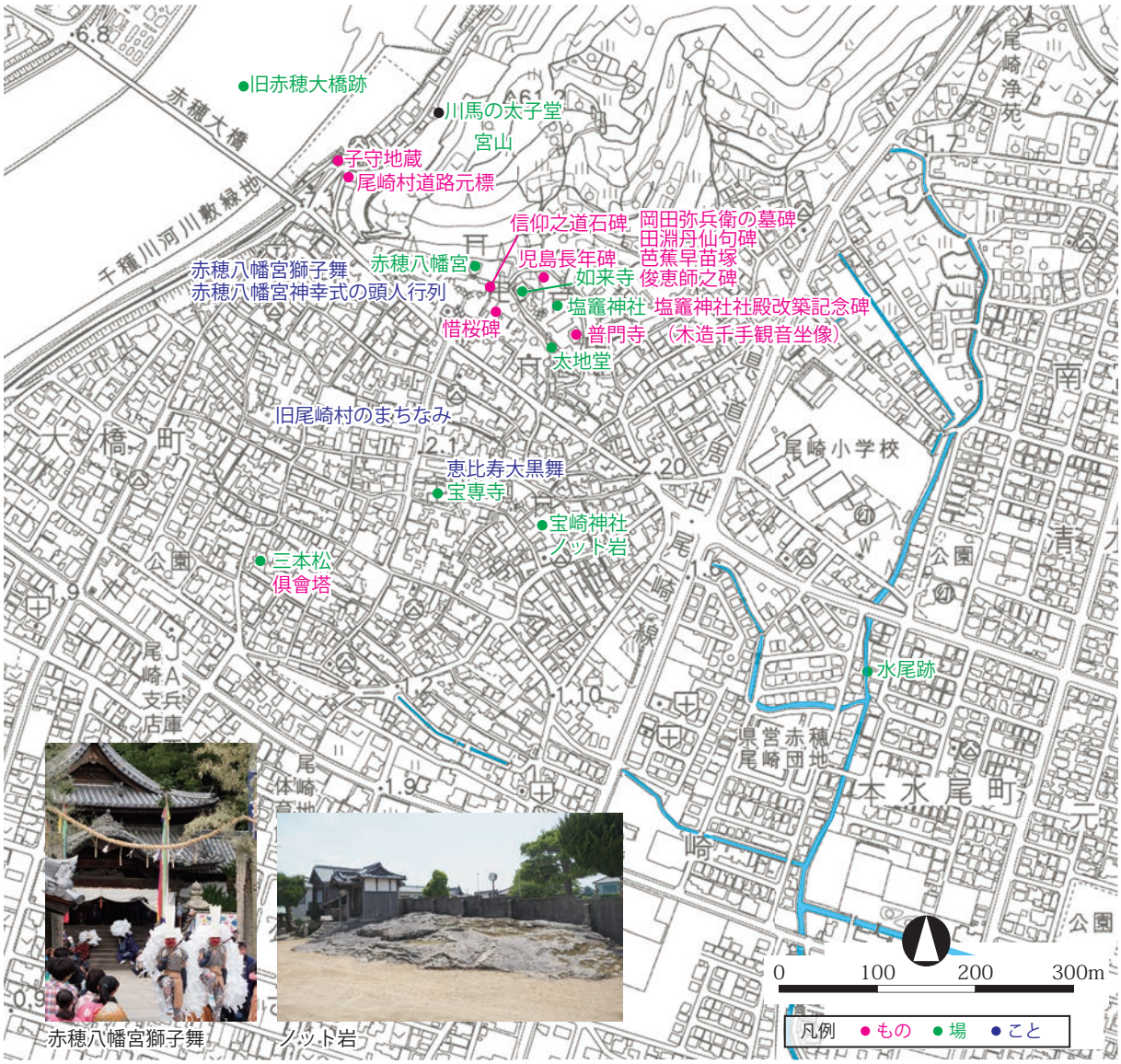
【ストーリー】

尾崎には、寛永 3（1626）年に池田光政の家臣岡田弥兵衛が製塩技術をもたらしたという伝承が残されており、一般的に言われる東浜塩田の干拓開始（1646 年）より古い。

浅野長直の赤穂への入封は正保 2（1645）年であり、技術者を招聘できたのは、池田時代にすでに下地があったためと言われているが、東浜塩田を開発して全国に知らしめたのは、間違いなく浅野家と言える。

尾崎地区には、塩田跡地を示す水尾跡とともに、赤穂八幡宮を中心とする旧市街地のまちなみと、塩田労働者の信仰の対象となった赤穂八幡宮があり、さらにその背後には如来寺、塩竈神社、普門寺などが立ち並ぶ「信仰之道」がある。周辺には忠魂碑、宝崎神社、宝専寺、尾崎という地名の由緒となった三本松といった歴史文化遺産が点在している。

赤穂八幡宮の秋祭りは、「赤穂八幡宮獅子舞」として県指定無形民俗文化財に指定された獅子舞に特徴があるほか、稚児頭人を肩車して練り歩く頭人行列（赤穂市指定無形民俗文化財）も著名である。いずれも塩業で栄えた尾崎地区の風情を色濃く残す。秋祭りの御旅所は宝崎神社にあるノット岩という露頭岩盤であり、塩田開発前の地形を物語っている。



赤穂八幡宮獅子舞　　ノット岩